2016年チーム市立札幌病院の目指すべきこと

市立札幌病院長　関　利盛

年が明けて、2016年となりました。年頭に当たり、今年の私たちチーム市立札幌病院の目指すべき業務につき述べたいと思います。

昨年は当院にとって２つの大きな出来事がありました。一つは電子カルテの入れ替えです。更新時期にあったことが入れ替えの理由でしたが、それに加えて皆さんの業務負担を少なくして、医療行為と医事の連動の精度を高めたいと考え入れ替えたものです。いまだ満足できるシステムにはなっておらず、今年の課題の一つと考えています。切り替えに当たっては様々な部門に助けてもらいました。あらためて、皆様のご協力に感謝いたします。２点目は、秋に行った病棟再編です。術後の重症患者を管理するハイケアユニット、臨時入院を一手に引き受ける臨時入院病床、パスを利用して短期間に多くの患者を引き受ける短期入院病床、癌終末期の患者を引き受ける緩和病床の増床です。これらは、院内の業務を分担することで適切な人員配置ができると判断しました。新たな病床機能を担っていただいた４階東西病棟や、７階東病棟には運用の面で負担をかけています。また他の病棟、部門も人員の配置などで協力をいただき感謝しています。ありがとうございます。私たちが目指しているのは、患者さんに適切な療養環境を提供すること、そして皆さんの労働環境の改善です。この病床再編が適切な業務分担につながり、患者さんの療養環境改善、そして皆さんの業務、労働環境の改善に結びつくものと期待しています。再編後２か月が経とうとしておりますが、新たな課題も出てきております。ひとつずつ皆さんの意見を取り入れながら解決していきたいと考えています。

次は私たちの目指す医療についてです。私たちチーム市立札幌病院が目指しているのは安全で良質な高度急性期医療の提供です。今後ますます顕著になる少子高齢化社会を見据えて、これまでの「治す医療」から「治し支える医療」への転換が求められています。これまでの病院完結型の医療ではこの命題に対応できず、地域完結型の医療提供が求められています。そのためには、連携している医療機関と共に患者さんの治療に対応することが必須です。

具体的には、他の医療機関から頼りにされて治療を依頼されることが多々あると思いますが、その際は迷わずに患者さんを受け入れて治療に専念してください。道内唯一の地域医療支援病院に指定された自治体病院として、他の医療機関を助けることが私たちの使命であると覚悟を決めて受け入れてください。そうすることで良好な信頼関係が生まれ、私たちも助けられることになると信じています。

今年は診療報酬が改定されます。現在までその概要が徐々に露わになってきていますが、病院経営という点からはかなり厳しい対応が必要になるものと考えています。７対１入院基本料の厳格化に見られるように、真の高度急性期医療を提供できる病院の選別が行われようとしています。平均在院日数のさらなる短縮、医療・看護必要度の大幅引き上げなどです。

しかし、私たちは昨年からすでに準備を始めています。病床機能を強化した病棟再編、さらには私たちが日常行っている診療行為を診療報酬に反映させる方策です。高度急性期病院の象徴ともいえる総合入院体制加算を取得するための様々な手立てをすでに行っています。他の医療機関にとっては逆風でも、当院にとっては前に進める好機と考えたい。

今年チーム市立札幌病院が目指すものは、地域の医療機関から信頼される高度急性期医療の提供病院です。多くの医療を必要としている患者さんを治して、連携医療機関に戻す、つまり逆紹介することが私たちに与えられた使命です。徹底的に行う必要がありますし、その準備はしてきました。

狂犬病のワクチンの発見など伝染病を防ぐ予防接種に多大な貢献をしたフランスの細菌学者、ルイ・パスツールはこう言っています。

「チャンスは、準備ができている者のもとにやってくる」

私たちは準備をしてきました。必ずこの医療界にとっての逆風を、しなやかに順風に変えることができると信じています。

どうか皆さん、この１年他の医療機関から紹介されて私たちの医療を必要としている患者さんやその家族のために、覚悟を決めて治療に当たっていただきたいと思います。

今年も健康に留意して、元気に頑張りましょう！！